

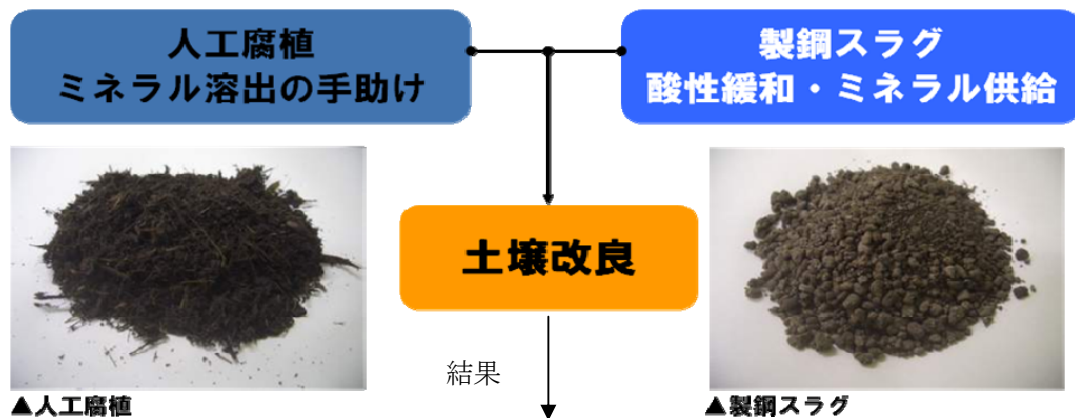
製鋼スラグを利用した森林再生の取組

【製鋼スラグとは】

鉄鋼製造工程において副産物として発生する鉄鋼スラグは、高炉スラグと製鋼スラグに大別されます。製鋼スラグとは、鉄を鋼に精製する工程において生石灰を投入し、冷却することで出来た化合物です。高炉スラグはセメント等に使用されていますが、製鋼スラグは利用方法が限られていました。製鋼スラグは、植物の生育を阻害するアルミニウムが少なくカルシウム、ケイ素、マグネシウム、リン、鉄などのミネラルを豊富に含むアルカリ資材であるため、肥料及び土壌改良材としての利用が期待されています。

【新燃岳での事例】

2011年の噴火による降灰で、森林内の下層植生が衰退しました。そこで、宮崎県の降灰地において製鋼スラグと人工腐植を林内へ撒き出して、森林再生試験を行いました。（人工腐植の詳細は「国産資材による人工腐植の開発」をご覧ください）



当初2～10cmの降灰厚があった林内で、人工腐植および製鋼スラグを使用した土壌改良を行ったところ、施工1年4カ月後には植被率90%の群落を成立させることに成功しました。（生育種：マツカゼソウ等）。



【受賞・メディア】

この取り組みはNHKの全国ニュースでも取り上げられました。また、平成24年日立環境財団主催第39回「環境賞」優良賞を受賞しました。

